

楊 夢 (ヨウ ユメ)

中国出身

日本女子大学 家政学研究科児童学専攻 修士課程

<女子大>を考える

2020年4月、私は女子大学に入学した。あ
のときの私は、「この先生の研究室に入りたい」
という素朴な理由で願書を出したが、「女子大
学はどんなところなのか」ということに関して
あまり考えていなかった。<女子大>の意味を
考え始めたのは、当時在学していた日本語学校
のクラスで毎週ディベートを行っていて、ある
週のテーマがたまたま、「男女共学」が普通と
なっている現在における、女子大学の存在の意
味」だった。あのとき、私は「意味ある」側の
選手として、初めて女子大学のことについて調
べて、考えた。ちょうどジェンダー（社会的性
別）を研究している友達がいる、ジェンダー論
や女子教育についていろいろ教わり、本も紹介
してもらい、やっと少し入門できた。

これから入る女子大学は、もともと男子だけ
が大学に行ける時代から芽生え、家庭に囲まれ
た女の子たちに高等教育を受ける機会を与え、
だんだん男女共に学びを受けられる社会とな
って教育機会均等に至った。あの時代の女性の
ほとんどは、誰かの娘・妻・母親という身分を
持って、誰かの付属品として生きていた。昔、
幼い女の子は、家で母親のそばにいて、料理や
家事など「お嫁さん学」を学んでいた。年頃に
なって、親から決められた結婚相手と結婚して、
子どもを産んで、母親になって自分の娘を教え
て…「自分はどんなもの?」「人生の意味は?」

など、あまり考えられていないだろう。女子大
学の存在は、彼女らにもっともっと広い世界を
見せて、娘・妻・母親の役から解放して、社会
という大きい舞台で輝く機会を与えた。

だが、教育機会の均等が実現した後、女子大
学の存在意味はなくなるだろうか。そうではな
いと思う。女子大学こそ、女性に関してより細
やかに、女性特有のエネルギーを発揮できる場
所である。女子大学の学生は、より鋭敏な女性
視点を持つことができ、女性のため、男女平等
のために考える・努める機会も増えるだろう。
男女は生物学上の差異もある。例えば、男性は
より体力が強く、女性は感情面でより鋭敏とい
う生まれつきの特性があり、女子大学は、男女
共学の大学に比べ、女性の長所を生かす可能性
が増えるだろう。

また、女子大学は社会に「平等」や「ダイバ
ーシティ」について考える機会を与えたのだら
う。女子大学はもともと弱い立場にいる女性の
ために存在したが、今の時代でも、決して「差
別」のことを忘れてはいけない。世の中に「少
数派」「声が小さい人」が存在していて、彼ら
（私たち）は他人と同じような権力を持つため
に戦っている。女子大学はその闘争の証として
も存在の意味があるのだろう。

結局、私はディベート戦で勝った。このディ
ベートで学んだものが、私の女性理解を深め、
人生の宝になっている。

以上